

平成27年1月30日

平成26年度 第3回学校協議会

[事務局]

1. 校長あいさつ
 - ・本年度最後の学校協議会。
 - ・大阪府でもいろいろなことがありましたが、来年度より入試は1回になる。
 - ・大学入試についても、思考力を問う出題が増えてくる。
 - ・本校の教育について忌憚のないご意見をお願いしたい。
2. 資料の確認と次第説明
3. 委員の自己紹介

[議事]

報告事項

1. 学校経営計画に関する事項
 - (1) 確かな学力の育成と進路実現の支援
 - ①授業力の向上
 - ・校長の授業見学では昨年よりも生徒の意欲が低いと感じた。
 - ・パッケージ研修では古典の群読を行い生徒は意欲的に取組んでいた。
 - ・英語では英語でプレゼンを実施。
 - ・保健では健康について研究発表を実施。
 - ・このような取組みで生徒の意欲を高めていくことが大事。
 - ・学校教育自己診断でも授業についての質問があるが、保護者の自由記述欄で良くない評価もされているので改善しなければならない。
 - ・初任者の研修も行っているので授業は良くなっていると思う。
 - ②カテゴリー制の充実
 - ・ステップアップコースは来年度から単独でクラス編成を実施。
 - ・進学については今年度さらに力を入れ、夏期休業中は自習室が盛況だった。
 - ③キャリア教育の推進
 - ・1年生では具体的な中身を設定して実施した。
 - ・今後の継承が課題。
 - (2) 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進
 - ①部活動、生徒会活動の活性化、規律ある学校生活
 - ・1・2年生で入部率は60%あるが、女子の入部率が低い。
 - ・「長尾カップ」「駅伝」等中高連携を実施。
 - ・アダプトプログラム参加者は約300名。
 - ・学校教育自己診断では生徒会活動の評価が上向き。
 - ・遅刻は昨年と比べ増加しているので、指導を強化し少しずつ改善。

- ・清掃は教職員の学校教育自己診断での評価が低い。
- ・生徒保健委員会で清掃点検を実施。
- ②「長尾高校適応サポート会議」の充実
 - ・高校生活支援カードの活用。
 - ・ケース会議で情報の共有が行われている。
 - ・いじめ防止基本方針の作成。
 - ・第3回いじめ防止委員会の実施
 - ・「総合的学習の時間」にいじめをテーマにした学習を行い、人権教育の研究会で発表し好評だった。

(3) 学校の組織力向上をめざした取組み

- ①経験年数の少ない教員のOJT推進
 - ・「さみどり塾」の定例化。
 - ・学校教育自己診断で世代継承の取組みは70%以上が達成。
- ②中高・高大・地域連携の推進と広報活動
 - ・関西外大より学生を派遣。
 - ・吹奏楽部によるわらしべ園での演奏。
 - ・家庭科の授業で保育所を活用した保育実習。
 - ・地元自治会のコーラスクラブと吹奏楽部のコラボレーション。
 - ・広報については本校の地理的条件を鑑み、外部の学校説明会よりも本校で実施する学校説明会の充実を検討。
 - ・ホームページについても充実できるよう検討。
- ③学校教育自己診断の分析
 - ・本年度より質問項目を減らし負担を少なくしたので、質問が違う項目は昨年と比較できない。
 - ・授業関連は評価が下がった。
 - ・生徒指導関連は評価が上がった。
 - ・生徒会関連は評価が上がった。
 - ・進路指導関連は評価が下がった。
 - ・施設・設備関連は評価が上がった。
 - ・視聴覚機器・ICTの活用、ホームページの閲覧はかなり低い。
 - ・11月以降の校長ブログについて説明。

2. 教員の授業その他の教育活動に係わる保護者からの意見の調査審議に係わる事項

特になし。

3. その他、校長が必要と認める事項

特になし。

[協議]

1. 学校経営計画に関する事項

(1) 確かな学力の育成と進路実現の支援

- ・学校教育自己診断の数字だけでは判断しにくい。大学の難易度も年によって変わるが、どの大学に何人入ったかということが判断基準になると思う。
- ・長尾高校はすごく努力されていると思う。中学校では、年間15人の先生の授業をみんなで見学に行っている。長尾高校は今種をまいている状態で、いずれ花が咲くと思う。
- ・「総合的学習の時間」の目標、「つくる」「ひらく」「つなげる」はOECDの目標に合致していると思う。
- ・ICTの活用については低いと思う。アクティブラーニングをしようと思うと、ICTをもっと活用しないと50分間の授業では難しい。アクティブラーニングが実践できるようになると、PDCAのサイクルがまわりやすくなる。
- ・入試が1回になるが、長尾らしさを出すためにどうするか。生徒がどう変わるかによって評価されるので、すごい労力が必要。生徒の気持ちをいかに授業や先生に向けさせるかということが肝心。
- ・以前、長尾の先生は、生徒に高校生として知っておいて欲しいことを指導していると聞いたが、それでは学力を向上させるために何十年もかかると思う。

*保健の授業での研究発表と、英語の授業での英語によるプレゼンについて説明。

- ・生徒をその気にさせる取組みが大切。
- ・アクティブラーニングという言葉がメジャーになりつつある。グループ研究からペア研究にすると効果が高まる。生徒はスマホを使いこなせるので、すごい資料を作ることができる。

(2) 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進

- ・遅刻について、進路にどのような影響を与えるのか？
- ・遅刻の数だけで進路に影響することはないが、遅刻をすることで授業が聞けないから成績も上がらないので進路に影響する。
- ・多くの府立高校でもホームページで遅刻が課題だとアップしている。
- ・遅刻については、抜本的な解決法を考えないと減らすのは難しい。根性論だけでは遅刻は減少しない。
- ・中学校では、親が弁当を作って生徒に渡すので遅刻は少ない。
- ・高校では自転車での移動時間を親が把握できていない。
- ・遅刻に対する特効薬はない。
- ・遅刻する生徒は朝ごはんを食べていない。
- ・大学では朝ごはんを安く提供している学校もある。

(3) 学校の組織力向上をめざした取組み

- ・学校教育自己診断の保護者の回答で、「わからない」「無回答」が多いが、ホームページがあるので活用すれば少なくなる。
- ・校長のブログや生徒の活動をホームページのトップにもってくれば、ホームページを見る機会も増える。
- ・来年度の1年生は7クラス募集になり、枚方市の中学生の数も減少傾向になる。
- ・軟式野球部の活躍をさらに広げていってほしいと思う。

[事務局]

1. 校長あいさつ

本日は貴重な体験等をお話いただきありがとうございました。
遅刻については、組織力を活かして対応していきたいと思えます。

(記録：村田)